

第5回美しい多摩川フォトコンテスト審査講評

- 日 時 平成25年1月22日
- 会 場 青梅信用金庫本店1F ギャラリー
- 審査委員 委員長：佐藤 秀明（日本写真家協会会員）
委 員：瀬戸 豊彦（風景写真家）
委 員：榎戸 勝洋（フィルムアーカイブス青梅）
- 応募作品 267点（82名）
内訳 ・多摩川の風景・人々部門・・・182点
・多摩川夢の桜街道 部門・・・ 85点

（総評）

- フォトコンの広報については、地元写真クラブ、JR青梅線の主な駅構内、青梅市内の公共施設にも行った。応募者総数が82名（うちリピーターの方が61名、今回初めての参加者が21名）という結果になった。皆様のご協力により、フォトコンを盛り上げていただき、今後も幅広い年齢層のアマチュア・カメラマンの写真が集まることを期待している。

（感想・意見）

- 宣伝に力を入れたが地元青梅の人が少ない。青梅には5つの写真クラブがあるが、地元の写真家が応募してくるフォトコンにして欲しい。ちなみに青梅レトロ写真コンテストには、青梅の人が多く応募し100枚前後の作品が集まっている。
- 同じ写真が多く、変わった作品がない。
- 良い写真は多くあったが、飛び抜けた作品がなく審査に時間がかかり5回審査会を行なった中で一番時間がかかった。
- 応募作品のマンネリ化がみられ、審査員の足元をみられ、審査員の傾向に合わせた応募写真が多く見られた。
- 応募者は65歳以上の人が多いが、写真人口は幅広い。若い人はスマートフォンや携帯電話で撮った写真を自分で楽しんだり、フェイスブックに掲示したり、仲間にメールで知らせるまでにとどまっていたり、作品にする人が少ない。

(反省・課題)

- 応募者を発掘するためにインターネット等を使い工夫して欲しい。
- 50歳以上の応募者が多い。30歳以下の方が喜んでいただける作品にするにはどうするか？20歳以上の方が興味をもって立ち止まって見ていただける写真にするにはいかにするかが、今後の最大のテーマである。
- 立川～多摩川上流の作品が多く、下流の作品が少ない。調布の方でも応募者の開拓をしていけば、もっと大きなフォトコンになる。
- 写真を一般の人が気軽にみれる営業店のロビーなどに展示してみてもどうか。
- 同じ傾向の写真が入賞するようなことがないように、我々も審査員も進化しなければならない。
- 多摩川の中流域中心に素晴らしい写真を撮影している写真家もたくさんいるので、声をかけてみたい。

以 上